

# 平成28年度

## 事業報告



社会福祉法人 横浜市社会事業協会

【施設概要】

名称	種別	所在地	定員
本部事務局		泉区中田東 3-15-2 中田町センタービル 202	
横浜市中心浩生館	更生施設	南区中村町 3-211	入所 68 通所 20 訪問 10
よこはまりバーサイド泉 ※放課後等デイの名称は「よこはまりバーサイド泉わかば」	障害者支援施設	泉区下飯田町 355	施設入所 60 生活介護 80 短期入所 6 放課後等デイ 5
横浜市大岡地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	南区大岡 1-14-1	通所介護 30
グループホームゆい	共同生活援助	泉区和泉町 5437	28(7 ホーム計)
横浜市箕沢地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	中区箕沢 13-204	通所介護 40
横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	保土ヶ谷区川辺町 5-11	
居宅サポート・リバーサイド泉	居宅介護・訪問介護ほか	泉区和泉町 5286-2	
グループホームサンライズ	共同生活援助	泉区和泉町 1197-1	16(2 ホーム計)
よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨	生活介護	泉区下飯田町 1374-2	20
グループホームアンダー	共同生活援助	保土ヶ谷区常盤台 64-18	13(2 ホーム計)
横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	鶴見区豊岡町 28-4 ハーモニーとよおか 4 階	
よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ ※放課後等デイの名称は「よこはまりバーサイド泉Ⅲひまわり」	生活介護	泉区下飯田町 811-6	生活介護 20 放課後等デイ 5
アテイン	就労継続支援 A 型	泉区中田東 3-15-2 中田町センタービル 201	10
インカル	就労継続支援 B 型 就労移行支援	横浜市中区翁町 1-3-9 タムラビル 2 階	就労継続支援 B 14 就労移行支援 6
グループホームすてら縁	共同生活援助	南区真金町 1-6-55 阪東橋ステラ	10
横浜市多機能型拠点こまち ※診療所の名称は「なごみクリニック」	多機能型拠点		生活介護 40 児童デイ 短期入所

(名称の網掛けは、指定管理施設)

## 《経営理念》

夢と希望のもてる誰もが住みやすい社会との架け橋を築く

## 《基本理念》

- 1 人々に共感と信頼の得られる社会福祉事業を行うことにより、人々の安心した暮らしの実現を支援します。
- 2 地域の関係機関と連携しながら、地域における福祉の環境づくりに貢献します。
- 3 堅実かつ効率的な経営に務め、サービスの質の向上と安定的な提供を確保します。

# 法人本部

## 1. 事業報告

重点目標に対する達成状況	
①	会計監査人導入に向けた準備として、貸借対照表各科目残高の内訳を随時確認できる体制を導入するなど、会計事務処理体制の整備を行った。
②	平成 28 年 11 月に精神障害者・知的障害者を対象としたグループホーム「すてら縁」を開所した。また、平成 29 年 4 月開設の「横浜市多機能型拠点こまち」を開所した。
③	新卒者対象の採用活動をより強化した結果、予定数を上回る 16 名の採用に至った。
④	アテインによる障害者雇用のほか、各事業所での障害者雇用の推進を図った結果、1 事業所で新たな障害者雇用が始まった。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(1日平均)			稼働率(年間平均)		
	H27 年度	H28 年度		H27 年度	H28 年度		H27 年度	H28 年度	
	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)	実績 (%)	目標値 (%)	実績 (%)
アテイン	2,088	2,300	2,121	8.6	9.5	8.8	86	95	88
常盤台	2,190	2,100	2,190	6.0	5.8	6.0	100	96	100
中里台	2,526	2,165	2,541	6.9	6.8	6.9	99	96	99

# 事業所名 横浜市中央浩生館

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 就労及び自立生活支援	課題解決に向けた支援により、7名の利用者が就労を実現、8名の利用者がグループホームに入居、8名の利用者が他施設（養護老人ホーム）に入所した。
② 利用者の安定確保	入所した人数は前年度とほぼ同数であったが、例年より多くの他施設移行（老人ホーム）や施設ルール遵守違反による15名の退館者があったことにより、年度を通しての入所定員を確保することができなかった。 また、通所事業の利用者については、定員には満たないものの前年度を上回った。
③ 地域に根差した活動の推進	「南区高齢者等定期訪問事業」での高齢者世帯への訪問活動は毎月1回の訪問を達成した。また、地域で行われる運動会、夏祭り等にも積極的に参加した。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(1日平均)			稼働率(年間平均)		
	H27 年度	H28 年度		H27 年度	H28 年度		H27 年度	H28 年度	
	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)	実績 (%)	目標値 (%)	実績 (%)
入所	833	816	780	69.4	816	65.0	102	100.0	95.6
通所	210	300	211	17.5	300	17.6	70	100.0	70.0
訪問	72	108	84	9.0	108	5.8	67	100.0	77.8
インカル 就労移行			1,494			5.9			99.6
インカル 就労継続			2,713			11.1			79.7
すてら縁			1,102			7.3			73.0

# 事業所名 よこはまりバーサイド泉

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 全体	日本ノーリフト協会とコンサルティング契約を結び、導入に向け、中核メンバーの育成、全職員対象の腰痛調査、全職員に対するノーリフトケア研修会を実施。ノーリフト導入に向けた事業所設備、利用者アセスメントを終了し実施に向けての準備が整った。
② 総務課	津久井やまゆり園事件をうけ、危機管理体制整備のため防犯カメラ 15 台・センサーライト 7 台・液晶モニター 2 台、職員玄関に電子錠を設置し外部からの侵入者への対策を強化した。コスト削減として電力会社を変更し電気料金を 3%削減、節水コマの取り付けにより水道料金を削減した。
③ 入所支援課	個別支援計画に基づく支援としてカンファレンスを適宜実施し、記録表にまとめ情報共有をはかった。個別支援計画をご家族や成年後見人等に説明し理解していただく仕組みを導入した。職員に対しては、学習会を開催し内容の理解を深めた。
④ 地域支援係	ニーズ調査の結果に基づき、環境整備と活動提供を実施。また、PDCA サイクルを用いて、活動に特化したミーティング実施。利用者満足度が向上し、利用者の増加につながった。5 年ぶりに卒業生の受け入れに向けた実習を再開。来年度利用者増に向けて基盤を構築した。
⑤ 児童支援係	夏休みにはひまわりと交流活動を実施、また学校帰りにホームセンターに立ち寄り買い物の機会を設ける等地域との交流を実施した。業務の見直しについては、業務分担を明確にすることで、それぞれの立場で利用者にあったサービスを提供することができた。
⑥ 健康管理係	ST 採用により、利用者の嚙下評価の実施等を各専門分野から多角的に利用者の観察ができ、健康維持に努めることができた。また年末の感染症発生においてはマニュアルの見直しや各職員への意識付けにより、早期に適切な対応を行うことができた。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(1日平均)			稼働率(年間平均)		
	H27年度	H28年度		H27年度	H28年度		H27年度	H28年度	
	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)	実績 (%)	目標値 (%)	実績 (%)
入所	21,537	21,170	21,620	58.8	58	59.28	98	96	98
生活介護 (リバー)	4,013	4,335	4,268	14.9	17	16.6	75	85	83
短期入所	1,910	1,944	1,886	5.22	5.4	5.16	104	90	86
計画相談 (リバー)	116	110	105						
児童	1,346	1,367	1,234	5.57	5.5	5.09	111	79	101

※短期入所は、平成28年度より定員が1名増。

※平成28年12月18日から平成29年1月5日までの間、ノロウイルス感染対策としてデイサービスおよび短期入所を休業

# 事業所名 横浜市大岡地域ケアプラザ

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 介護保険事業における安定的な収入確保のためのシステム作り	<p>(ア)平成 28 年度は前年度より算定し始めた「個別機能訓練加算(Ⅱ)」の利用も順調に伸び、また「認知症加算」「サービス提供体制加算(Ⅰ)イ」など加算を取得し、安定した収入増のシステムを作った。</p> <p>(イ)利用者数 25 人/1 日平均を目指したが、新規利用者に比べ、廃止の方が多く、実質利用者増にはつながらなかった。</p>
② 「介護予防・日常生活支援総合事業」の啓発及び介護予防事業の推進	<p>各区 1 ヶ所の「基本チェックリスト試行・地域包括支援センター」として平成 28 年 9 月までモデル事業を担い、平成 28 年 10 月より、「介護予防・日常生活支援総合事業」の横浜市全域での本格実施に伴い、エリア内の軽度の方々に対して新たな制度に対する啓発を行い、またケアプラザ内外での介護予防の推進を図った。</p>
③ 地域・関係機関等との連携、協働	<p>(ア)「認知症サポーター養成講座」を地区社協、区社協、学校などと連携を深め、小学校の生徒などにも実施し、認知症の啓発に努めた。また、同様に地域の企業などにも講座を行なった。</p> <p>(イ)地域の特別支援学校と「福祉教育」の一環として、ケアプラザでの清掃活動、サロン等の手伝い、歌などの披露等、活動の場として、また社会に出る前の社会参加の体験の場として、ケアプラザの活用をし始めた。</p>

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(1日平均)			稼働率(年間平均)		
	H27 年度	H28 年度		H27 年度	H28 年度		H27 年度	H28 年度	
	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)	実績 (%)	目標値 (%)	実績 (%)
通所介護	8,803	8,975	8,031	24.5	25.0	22.3	82	83.3	81.7



# 事業所名 横浜市箕沢地域ケアプラザ

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 地域包括支援センター	地域に向けて、成年後見制度や相続などの講座を開催したことで、権利擁護に関する理解、意識付けを行った。また、地域事業やサロン活動、個別訪問など、医療・介護のスムーズな連携に向けてチーム会議で情報共有を深めるとともに、ケアプラザ内外で介護予防の推進を行った。
② 地域活動・交流事業	(ア) 中区地域福祉保健計画中なかいいネ！の推進母体『まちなかプロジェクト』に青少年指導員会長が加わった事で、組織拡大及び活動の充実につながった。 (イ) 元気づくり推進協議会の立ち上げを目指し、連合町内会と、まちなかプロジェクトが協議の場を持ち、事務局の組織化への合意を得る事ができた。 (ウ) ケアプラザの自主事業、中区の事業、箕沢地域ケアプラザの貸館サークルの活動をまとめた冊子を作成し、各機関と連携しながらサポート体制を整えた。
③ 生活支援体制整備事業	地域課題を探る為に多職種と連携しながら調査を行うことができた。
④ 居宅介護支援事業	地域包括支援センターと連携し、地域の特性に合わせて「その人らしい生活」が送れるように公正中立の立場で適切な支援を行うことができた。
⑤ 通所介護事業	(ア) 「個別機能訓練加算」や活動内容の工夫によって利用者数を維持し、安定した経営を行うことができた。 (イ) 送迎の注意点や運転技術向上に向けて、ドライバー研修を9月に実施し、送迎前後やヒヤハト時には個別指導を実施し、事故予防に努めた。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(1日平均)			稼働率(年間平均)		
	H27年度	H28年度		H27年度	H28年度		H27年度	H28年度	
	実績(人)	目標値(人)	実績(人)	実績(人)	目標値(人)	実績(人)	実績(%)	目標値(%)	実績(%)
通所介護	10,294	10,411	10,956	28.6	29	30.5	71.6	72	76

# 事業所名 横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① アウトリーチ活動の強化	基幹相談支援事業所をはじめ、訓練施設、区役所、訪問看護事業所など、定期的な情報交換や、計画相談を通して密な連携を図り、タイムリーな支援を展開した。
② 指定特定相談支援事業の効率的な体系の構築	区役所や基幹相談支援事業所などの依頼に加えて、周辺の地活や訓練施設で、センターの事業説明と計画相談の説明を行い、スムーズに導入できる仕組みを試みた。
③ 自立生活アシスタント事業の支援体制	個別支援計画に基づき、特に長期にわたる支援を見直し、卒業に向けてのアプローチを行い、スポット的に活用できるように移行させて行った。
④ 地域移行・地域定着支援	新規利用者を受け入れられるように、効率的に活動を行った。国給付事業と退院サポート事業はほぼ半数ずつ。啓発活動は、当事者を交えて病院のソーシャルワーカーと一緒に活動した。過去5年間の活動の軌跡（入院から地域定着まで）を、当事者と病院ソーシャルワーカーおよび担当職員とでまとめ、地域移行支援事業の意義と今後の課題を発表した。

## 2. 稼働実績

事業名	契約数		
	H27年度	H28年度	
	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)
自立生活アシスタント事業	21		14
地域移行・地域定着	17		18
計画相談	41		46

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

# 事業所名 居宅サポート・リバーサイド泉

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① グループホームゆい	<p>(ア) 高齢化・障害の重度化による身体状況の変化等に合わせ、個々の体に合った福祉機器の導入や介護保険制度の車椅子レンタル等利用しそれぞれの状況に応じた個別支援体制を作った。</p> <p>(イ) 各ホームの設備について、故障箇所については速やかにかつ安価に修繕し、入居者が安心できる生活環境を提供した。</p>
② グループホームサンライズ	<p>個々の入居者の課題に向き合い自己決定を尊重しながら、健康管理や金銭管理、地域定着等について関係機関と連携し年度で3名を他ホームへ送り出し、また施設等から2名を受け入れた。</p>
③ 居宅介護・移動支援	<p>人材の確保が困難な中、利用者満足度を担保しながら売り上げを確保できるよう、無駄な派遣時間を削減、他事業所併用を提案し事業所継続のための提案、実施を行った。</p>
④ 相談支援	<p>障害施策だけでなく医療、高齢等含め地域で生活を展開できるよう幅広くサービス利用を検討した。本人支援に付随して家族支援が必要な際、ケアプラザ、介護保険関連事業所等と情報共有し、手分けして効果的な対応ができるよう連携した。</p>

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(1日平均)			稼働率(年間平均)		
	H27年度	H28年度		H27年度	H28年度		H27年度	H28年度	
	実績(人)	目標値(人)	実績(人)	実績(人)	目標値(人)	実績(人)	実績(%)	目標値(%)	実績(%)
ゆい	10,024	9,855	10,057	27.3	27	27.5	97	96	98.4
サンライズ	5,400	5,475	5,840	14.8	15	16	92	93	100

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(月平均)		
	H27 年度	H28 年度		H27 年度	H28 年度	
	実績 (時間)	目標値 (時間)	実績 (時間)	実績 (時間)	目標値 (時間)	実績 (時間)
訪問介護	1,651		2,136	137		178
居宅介護	20,725	17,654	18,507	1,728	1,471	1,542
同行援護	100		93.5	8.3		7.7
移動支援	7,336	6,855	6,872	611	571.25	572.6

事業名	稼働数(年間のべ)		
	H27 年度	H28 年度	
	実績 (人)	目標値 (人)	実績 (人)
相談支援	58		65

# 事業所名 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 調査分析から見えた課題に対する支援	横浜市生活支援センター連絡会において、業務整理チーム及び幹事会の中でリーダーシップを発揮し、全センターの運営に関する調査分析を行い、生活支援センターの機能効率化に向けて検討をした。その結果、横浜市の担当課職員との改善に向けた検討の場を定期的に持てるようになった。
② 地域課題解決へ向けたアプローチ	区内の自立支援協議会に対しては、過去に地域向けに行った調査結果を基に、精神保健福祉連絡会（仮）の発足が必要と考え、今年度は発足に向けての準備をした。次年度、準備段階の検討チームが組織されることとなった。
③ 相談支援専門機関としての役割強化	地域ケアプラザへの講師派遣、各事例検討会にオブザーバー参加等を行い、専門機関としての役割を果たすべく、関係機関からの協力依頼に対応をした。こうした活動の中や鶴見区自立支援協議会においても、精神障害に関することの助言を求められるようになってきた。また、職員が内外の研修に参加し自己研鑽を行った。
④ 区福祉保健センター・基幹相談支援センターとの連携	基幹相談センターを受託した法人（大樹）と元々連携が取れていたため、連携は円滑に行えた。このことに関しては、横浜市からもモデルとして評された。3センター合同で、3回普及啓発活動に関する一般市民向けの研修会を実施した。
⑤ 環境整備が整えば退院可能な方への地域移行支援（病院へのアウトリーチ活動）	定期的に精神科病院との協働活動等を実施した（14回）。次年度には、区内精神科病院入院者に対する調査を実施するため、基幹相談支援センターと連携しながら病院側の理解を得る為に検討を重ね、実施の方向で話がまとまった。また、川崎市自立支援協議会からの依頼で、地域移行支援に関する講演会の講師を務めた。

## 2. 稼働実績（平成 29 年 3 月 31 日現在）

事業名	契約数		
	H27 年度	H28 年度	
	実績(人)	目標値(人)	実績(人)
自立生活アシスタント事業	24		21
地域移行・地域定着	11		12
計画相談	40		38

# 事業所名 よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 組織体制の見直し（泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目）	「よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨」、「よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり」の管理職・専門職・事務員を共通配置し、効率化及びコスト削減に努めた。
② 医療的支援の強化（泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目）	生活支援員の喀痰吸引等不特定（第1号）取得により、看護師とも連携を図りながら、安心して医療的ケアを提供できる環境整備を行った。また看護師を複数配置できる体制を整えることにより、障害の重度・重複化などへの対応に努めた。
③ 多機能型拠点開所に向けたバックアップ体制への取組み（泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目）	多機能型拠点事業所の開設に関して、職員育成機関、人材育成費を含めた協力を行った。
④ 風通しの良い職場環境作り	全職員が事業運営に関わる様々な取組みに参加することにより、意見交換の場や気付きの場を持つことにつながった。
⑤ 職員のスキルアップ	職員面談や研修履歴をもとに業務上、必要な研修に職員が参加できるように取組み、定例ミーティングなども利用してOJTを有効に活用することができた。また事業所内での役割の明確化や対外的な窓口などを通してリーダー育成にも取り組んだ。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(1日平均)			稼働率(年間平均)		
	H27年度	H28年度		H27年度	H28年度		H27年度	H28年度	
	実績(人)	目標値(人)	実績(人)	実績(人)	目標値(人)	実績(人)	実績(%)	目標値(%)	実績(%)
生活介護	3,435	5,635	5,598	21.4	20.6	21.1	107	103	104
計画相談	180		176						
日中一時	10		19						

※計画相談は契約者数

# 事業所名 よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり

## 1. 事業報告

重点目標に対しての達成状況	
① 組織体制の見直し（泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目）	「よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨」、「よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり」の管理職・専門職・事務員を共通配置し、効率化及びコスト削減に努めた。
② 医療的支援の強化（泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目）	生活支援員の喀痰吸引等不特定（第1号）取得により、看護師とも連携を図りながら、安心して医療的ケアを提供できる環境整備を行った。また看護師を複数配置できる体制を整えることにより、障害の重度・重複化などへの対応に努めた。
③ 多機能型拠点開所に向けたバックアップ体制への取組み（泉Ⅱ・泉Ⅲ共通項目）	多機能型拠点事業所の開設に関して、職員育成機関、人材育成費を含めた協力を行った。
④ 業務効率の改善への取組み	業務改善プロジェクトを立ち上げ、時間の使い方、課題の抽出を実施した。それらにより、一部業務を外部委託し業務効率化を図った。
⑤ 職員の質の向上	定例ミーティングを利用してミニ研修を実施するなど、OJTを有効活用し職員のスキルアップを図った。また研修に参加しやすい環境整備にも取り組み始めた。

## 2. 稼働実績

事業名	稼働数(年間のべ)			稼働数(1日平均)			稼働率(年間平均)		
	H27年度	H28年度		H27年度	H28年度		H27年度	H28年度	
	実績(人)	目標値(人)	実績(人)	実績(人)	目標値(人)	実績(人)	実績(%)	目標値(%)	実績(%)
生活介護(のぞみ)	5,025	5,140	5,355	19.4	20.1	20.7	97	100	104
日中一時(のぞみ)	30	24	17	0.1					
児童(ひまわり)	1,468	1,538	1,471	6.0	6.3	6.1	121	126	121

# 事業所名 横浜市多機能型拠点開設準備室

## 1. 事業報告

### 重点目標に対しての達成状況

#### ① 建設に関わる取り組み

建築関係業者・福祉局等との月2回以上の定例会及び分科会にて建築の進行に合わせ、地域住民・医師会・学校関係等への説明会を定期的に行い、地域住民等への建設に関する理解を得る事が出来た。また、実施設計においては、重症心身障がい児者の親の会等、利用して頂ける方の意向を多く取り入れることで、設備においても充実する事が出来た。

#### ② 人材確保に関わる取り組み

平成28年度4月より4名の職員の準備室担当者を配置する。平成28年12月までは各事業の責任者としての能力を有するものを優先的に採用し医師を含め14名体制となる。平成29年1月の建物引き渡しと同時に段階的に採用時期を調整し、1月(9名)2月(10名)3月(9名)4月(18名)の採用確保により10事業の申請に関わる人員配置を達成できた。採用困難職の医療職においては、コンサルティング会社の活用により、看護フェア・紹介会社への事業説明等を実施し、看護師20名を確保する事が出来た。

#### ③ 利用者確保に関わる取り組み

多機能型拠点における事業説明会をご利用者・ご家族向け・地域関係者に対して、平成27年5月から28回開催し、多機能の役割を理解して頂けるように努めた。また、平成28年7月より利用者アンケートを実施、9月より実態調査を実施、平成29年1月より施設見学を含めた体験利用を実施した。3月の診療開始から、医療ケアの指示書作成を開始し、利用契約を進め105名の登録者に繋がった。

#### ④ 各事業に関わる取り組み

各事業においては、平成29年1月より、担当責任者を配置し物品調整・申請関係、ソフト関係、職員配置体制、利用契約に伴う準備、支援計画等を進め、4月に開所できるように取り組む事が出来た。また、診療所運営においては、コンサルティング会社と連携することで、3月の開設に間に合う事が出来た。

#### ⑤ 職員育成に関わる取り組み

平成28年4月より、利用者が安心・安全に利用できるように高度の医療ケアを要する重症心身障がい児者についての知識の向上を目指し、職員育成マニュアルや外部研修計画を作成し、全職種対応の入職時の共通研修5日間・現場研修3週間を3月までの入職者に対して実施し、採用職員のスキルアップと多機能型拠点の役割を周知する事が出来た。外部研修においては、既に開所している他法人の多機能型拠点への外部研修を含め、多くの関係機関の協力により、学習する事が出来た。